



礼拝ミニ講座 (7) <交読>

<交読>

礼拝では多くの場合「詩篇」を交読します。それは、聖書の時代から礼拝の中で詩篇が用いられ、歌われ、朗読されてきたからです。

<詩篇>

詩篇は歌われてきたものと考えられます。表題（〇〇の調べにのせて・・など）から分かります。それも様々な形式で歌われてきました。その中に「交唱」※ という形式がありました。交唱で歌うことによって、詩篇がさらに生きたみことばとして歌われていたことでしょう。<交読>はその流れにあると考えられます。

※ 交唱の例

応答唱・・先唱者(先に歌う人)に続いて会衆が後に続いて歌う形

交互唱・・複数人同士または単独同士が交互に掛け合いのように歌う形

<聖書の朗読>

パウロは聖書の「朗読」を勧めました（Ⅰテモテ 4：13）。主イエス様も実際に礼拝の中で聖書を朗読されました（ルカ 4：16-19）。神はみことばを語り、人がみことばを聞くことによって、みこころを伝えました。聖書を声に出して朗読することで、神のことばを文字通りに聞くことができます。また、聖書を声に出して読むことは信仰告白と同じです。

礼拝において兄弟姉妹と共に<交読>することによって、生きたみことばを声に出し、感謝し、心に刻みましょう。

参考聖書箇所…詩篇 42、43、91、92、135、136 など

（交唱で歌われていたとされている代表的な詩篇）